

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	選抜理系	2	具志堅
教科書	『論理国語』(数研出版)				
副教材	『論理国語 準拠ワーク』(数研出版), 『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いずな書店), 『イラストとネットワーキングで覚える 現代文単語 げんたん 改訂版』(いずな書店)				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 語彙力・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解) 情報の扱い方を理解する。(情報の重要度による整理、推論)</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業を聞く。与えられた課題、自分で発見した課題に取り組む。他者と協働して問題解決を図ろうとする。成果物を提出する。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)				
	観点② 演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)				
	観点③ 授業姿勢・成果物				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> 自力で大学入試問題を早く正確に読み取る力を養っていくことを主眼とする。 教科書の文章だけでなく各大学の過去問を扱い、問題に慣れる。 ペアワークやグループワークで自己の視点を意識する。 				
家庭学習	学習内容と進め方	漢字『TOP2500』(第二章ランクCまで)を1周する。			
	学習の目安時間・分量	特に単語数等は指定しないが、毎日数分でも目を通すようにする。			
	学習状況の確認方法	定期考査において、教科書の文章内で該当する語や漢字について問いを設ける。			
	成績評価との関係	主に観点①の点数として評価するが、観点②における内容理解等にも反映され評価に影響する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	<ul style="list-style-type: none"> 必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする。 関心のある領域の新書等を積極的に読む。 				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1環境と心の問題	論理的文章の理解
	5	中間考査(5/21~)	
	6	2「文化が違う」とは何を意味するのか? 3「いき」の美学	
	7	7 期末考査(7/5~) ※適宜演習を実施	
2	9	4「である」ことと「する」こと	論理的文章の理解
	10	中間考査(10/14~)	
	11	5顔の所有 6人はなぜ働かなくてはならないのか	
	12	7 期末考査(12/2~) ※適宜演習を実施	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	公民科	政治経済	選抜理系	2	芳野
教科書	実教出版『詳述 政治経済』				
副教材	実教出版『詳述 政治経済 演習ノート』 山川出版社『大学入学共通テストへの道 公共, 政治・経済 2026-2027年用』 担当者作成のテキスト				
評価基準	観点① 知識・技能 ○現実社会の諸事情をふまえて、国内・国際経済に関する概念や理論などの理解を深めている ○国内・国際経済に関する諸資料から、課題解決のために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る能力を身に付けている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ○市場や財政、金融といった経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している ○相互依存関係が深まる国際経済の特質と、国際経済において果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 学習に対する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしている				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① ○経済の基本概念を正確に把握・理解し、それを記述できる ○課題解決の糸口となる資料を正確に収集・分析できる				
	観点② ○経済活動と福祉の向上との関連について思考し、状況に応じた適切な判断ができる ○国際経済において日本が果たすべき役割を考察し、状況に応じた適切な判断ができる				
	観点③ ○レポート作成を通じて自己の学習状況を振り返り、学習に対する自己調整ができる ○他者との交流から、課題解決への意欲・課題解決に向けた見通しをもつことができる				
授業のねらい・進め方・注意点	授業のねらい：国内・国際経済のしくみを理解し、諸課題の解決に主体的に取り組むための基礎的な能力を身に付ける				
	授業の進め方：基本的に担当者作成のテキストを使用し、ペアワークを多用します 注意点：進度がはやく、分量も多いので、高い集中力をもって授業にのぞんでください				
家庭学習	学習内容と進め方	予習よりも復習に力を入れてください。 授業で扱ったテキストの内容はその日のうちに見直すよと思います。 また、知識定着のために問題集を活用しましょう。			
	学習の目安時間・分量	通常時はその日に扱った授業内容を。考查前は問題集を活用しながら自分の納得するまで。 社会科は、勉強にかけた時間だけ成績が上がります。ただし、得意不得意の個人差があるので、自分に合った勉強のスタイルを確立してみてください。			
	学習状況の確認方法	原則毎授業の冒頭で、前回の授業の確認を行います。			
	成績評価との関係	上記の通り、社会科は勉強にかけた時間だけ成績が上がります。 家庭学習が考查の結果につながると思ってください。			
図書資料の活用等	○『朝日中高生新聞』をはじめ、複数新聞社の記事 ○映画『トゥルーマン・ショー』ほか、授業内で適宜映画や書籍を紹介します				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書 副教材	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題 第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義 第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 3 国民所得と経済成長 ~~~~~ 中間考査 ~~~~~
	5		
	6		第2章 現代経済のしくみ 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 1 経済の停滞と再生 ~~~~~ 期末考査 ~~~~~
2	7		
	9	教科書 副教材	第3章 現代経済と福祉の向上 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割 第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第2章 現代の国際経済 1 商品・資本の流れと国際収支 ~~~~~ 中間考査 ~~~~~
	10		
	11		第2章 現代の国際経済 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融 4 地域経済統合と新興国の台頭 6 経済協力と人間開発の課題 ~~~~~ 期末考査 ~~~~~
12			
※大学入試の受験科目で公共・政治経済を使用する(/予定の)生徒は、担当者に声をかけてください。			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学C	選抜理系	3	平田
教科書	数研出版数学IIIC				
副教材	サクシード数学IIIC、各自の大学受験用の参考書				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書の100%の理解を目指す。入試問題においての土台となる部分を確実にマスターできるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 観点①を踏まえ、より実践的な取り組みをする。例えば、教科書章末問題や複合的な問題の解法などができるようにする。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 受験生としてあるべき姿で取り組んでください。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書の例・例題・練習、4STEPのAレベルの問題 50点				
	観点② 教科書の応用例題・発展・補充問題、4STEPのB・練習問題レベルの問題 50点				
	観点③ 授業への取り組み、課題(自宅学習)への取り組み 10点				
授業のねらい・進め方・注意点	2年次に学習したベクトル、複素数平面に続き、残った二次曲線を片付けます。 とにかく基礎基本を徹底し、入試問題に対応できるための土台を作ります。 二次曲線終了後は、数学IAIIBC入試問題基礎演習、共通テスト対策を進めます。 A4レポート用紙を準備しておくこと				
家庭学習	学習内容と進め方	授業のあったその日に学んだ内容の復習を行う。また、3日後、1週間ごと間隔をあけて復習を行うことで内容に対する理解度が向上する。			
	学習の目安時間・分量	その日に学んだ内容はその日に復習を行うことを目的とするため、短い時間でも構わない。ただし、解説を見て理解ができ、解答を作り上げることができる生徒はごく少数のため、必ず問題を解き、自分の解答が正しいのか間違っていたのか確認し、振り返りを行うこと。			
	学習状況の確認方法	教科書や問題集の復習についていつやったのか、できたのかを記録して客観的な視点を持つことが重要。また、課題の提出やスタディプラスへの書き込みにより、理解度の確認や継続性の認識を意識する。			
	成績評価との関係	計画的かつ継続的に学習を行うことができれば数学の成績向上だけではなく、論理的思考能力を得ることができ、将来に向けて必要な力量を得る足掛かりになるため、成績評価に左右されることなく、学習に励んでいただきたい。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	以下の書籍に関連事項が書いてありますので、興味関心のある生徒は触れてみてください。 数学ガール・結城浩・フェルマーの鸚鵡はしゃべらない・ドゥニ ゲジ				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		・教科書(数研出版数学B・数学C) ・スクールタクト	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 ・放物線、楕円、双曲線 ・2次曲線と直線 第2節 媒介変数表示と極座標 ・媒介変数表示 ・極座標と極方程式 数学B 第2章 統計的な推測と確率
2		スクールタクト	・数学IAIIB基本入試問題演習 ・共通テスト対策
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	数学	数学選択	選抜理系	2	花澤
教科書	共通テスト模試の過去問				
副教材	各自が共通テスト問題を解くにあたって参考にできるもの。				
評価基準	観点① 知識・技能				
	各大問の前半が解ける。				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	各大問の後半が解ける。				
考查	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
	時間を測って、必ず指示されたセットを解いてくること。解いたものは丸付けをし、得点も記入する。得点をフォームで回答すること。提出すべきフォームの充実度によって観点③の得点を算出する。				
1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施	上記考查は全て、観点①50点＋観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	定期考查ごとにテスト100点、観点③10点を加算し、満点に対して取得した点数の割合で評価する。				
テスト・評価の内訳	観点①				
	授業内テストの得点を2で割り、小数点以下を切り捨てた値をその試験における観点①の点数とする。				
	観点②				
授業内テストの得点を2で割り、小数点以下を切り上げた値をその試験における観点②の点数とする。					
観点③					
上記で述べたフォームの充実度で判断する。					
授業のねらい・進め方・注意点	<p>成績を上げる最短の方法の一つは、本番と同じ形式で質の高い問題を解き、復習することです。この授業では共通テストで戦う力を養成するため、ひたすら模試の演習と解説を繰り返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは授業で指示された問題を制限時間内に解いてみる。制限時間内に終わらせるため、わからない問題を飛ばすことも肝心です。 ・採点し、得点率を記録する。解いているのに間違った問題は解説も見て確認すること。 ・授業を受ける。難しい問題に関しては参照すべき数学の知識を紹介するので、1,2年時の授業ノートを参照し、類題の復習にあたってください。演習が最短ルートと言っても、基礎が身についていなければどうにもなりませんし、基礎をこの段階で授業でやっている場合はありません。各自で学習すべきです。 				
家庭学習	学習内容と進め方	上記授業のねらいを参照してください。			
	学習の目安時間・分量	週5時間を数学選択の授業の予習・復習に当てる前提で課題を提示するので、それに合わせて学習してください。			
	学習状況の確認方法	フォームで確認します。			
	成績評価との関係	フォームの充実度は観点③の評価対象となりますし、そもそも家庭での学習が授業内テストの得点に直結します。			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1			共テ模試過去問（駿台・ベネッセ）
2			共テ模試過去問（河合塾）
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	物理・理科選択Ⅱ	選抜理系	4+2	齋藤広
教科書	物理基礎(物基703)実教出版 物理(物理702)実教出版				
副教材	セミナー物理基礎+物理(新課程版) 第一学習社				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 単元ごとの語句(名称や理論)の意味するところを正確に理解できる。 公式を使って、基本的な問題を解き、物理量を求めることができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 実験等によって得られた情報を整理・分析し、法則性や関係する物理量を求めることができる。また、得られた知識を使って応用的な課題を解決できる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業や課題に真剣に取り組む、知識や思考力等の成長のために努力できる。 また、学習した内容と日常生活との関わりなどについて調べたり考えることができる。</p>				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施(理選は授業内テスト) 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50)+ 観点②(中間50+期末50)+ 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 基本的な問題・語句等の知識問題				
	観点② 応用問題				
	観点③ 提出物・レポート・小テスト・普段の取り組み				
授業のねらい・進め方・注意点	物理を選択した人は、基本的には大学受験科目として物理を選択するであろうということを前提として、大学進学に向けて必要な最低限度の知識と技法を身につけることを目標として授業を行います。 クラスの様子を見て、適宜進度を変えて授業を行う可能性があります。				
家庭学習	学習内容と進め方	「セミナー」を進める。大学過去問を解く。 教科書や授業資料を振り返る。自分に合った参考書に取り組むことを推奨する。			
	学習の目安時間・分量	毎日1時間以上の学習が望ましい。			
	学習状況の確認方法	課題の提出状況や定期考査などで確認。			
	成績評価との関係	観点③の成績の一部として評価する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートの作成や、大学過去問の演習の際に活用する。				

授業の計画

学期	月	教材	内容	
1	4	物理基礎4章1節 電流	静電気と電流 オームの法則、電気とエネルギー	
		物理3章1節 電荷と電場	電場中の導体 コンデンサー	
	5	物理3章2節 電流	電気回路と直流回路	
		物理1章3節	等速円運動	
	6	円運動と単振動	慣性力と単振動	
		物理1章4節万有引力	ケプラーの法則と万有引力	
	7	物理1章5節	気体分子の運動と状態方程式	
気体分子の運動		気体の内部エネルギーと状態変化		
2	9	物理3章3節 磁場と電流	磁場、電流の作る磁場 電流が磁場から受ける力	
		物理3章4節 電磁誘導と電磁波	ローレンツ力 電磁誘導の法則	
		物理基礎4章2節 電気の利用	自己誘導と相互誘導、電気振動と共振 交流 電磁波	
	10	物理4章1節 電子と光	電子 光の粒子性と電子の波動性	
		物理4章2節 原子と原子核	原子の構造 原子核と原子核反応 素粒子	
	11	セミナー物理基礎+物理	入試過去問題の研究	
		12	入試過去問題	
	3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	理科	化学	理系選抜	6	齋藤
教科書	化学academia 実教出版				
副教材	セミナー化学基礎+化学 第一学習社				
評価	観点① 知識・技能 語句 単元ごとの語句（名称や理論）の意味するところを正確に理解する。 技能 実験の際に、適切に器具を使用し、実験のねらいを果たす。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 問い 単元ごとの代表的な問いについて学ぶことで、科学的な見地を手に入れる。 意見 状況に応じた理論の活用を行い、自分自身の意見を形づくる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 意欲 自分で必要だと思ったことを実施し、語句の修得のための努力を重ねる。 関心 修得した理論の歴史や社会的意義を、調べたり考察したりする。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① セミナー化学基礎+化学における基礎知識 授業中に扱った基礎知識				
	観点② 単元における発展的な内容				
	観点③ 提出物				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のすべてが授業者による内容の解説にならないように配慮する。 ・知識の詰め込みではなく、日常生活でも論理的思考が出来るように促す。 ・毎授業の終わりに、学習の自己調整についての考えを整理する時間をつくる。 ※授業中の教員の話は、重要なことが多いのでしっかり聞くこと。				
家庭学習	学習内容 と進め方	問題集「セミナー化学基礎+化学」をテスト前だけでなく普段から授業で学習した箇所を随時復習として解くこと。 また、完全に解け、解説できるまでやりきること。			
	学習の目 安時間・ 分量	テスト前に一気にまとめていると週6時間の授業なので間に合わない。毎回の授業をその日のうちに簡単でも良いので復習するよう心掛けること。			
	学習状況 の確認方 法	定期考査日(指定日)に教科担当者に提出。			
	成績評価 との関係	観点③の評価に加える。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	レポートを書く際に資料として使用。				

授業の計画

※授業の進度により変更することがあります。

学期	月	教材	内容
1		4 第2章 物質の変化と平衡 4節 化学平衡	弱酸・弱塩基の平衡における復習 緩衝溶液、塩の加水分解、溶解度積
		5 第5節：芳香族化合物 第5章：高分子化合物 第1節：高分子化合物 第2節：天然高分子化合物	芳香族化合物の性質、反応を理解する。 天然高分子、合成高分子の構造、性質を理解する。
		6 第3節：合成高分子化合物 第3章：無機物質	
		7 第1節：周期表 第2節：非金属元素 9 第3節：金属元素	非金属元素の反応、性質を理解する。 金属元素の反応、性質を理解する。
2		11 入試問題演習	
		12 入試問題演習	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	選抜理系	2	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能				
	観点② 思考力・判断力・表現力				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度				
考查	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
家庭学習	学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。			
	学習の目安時間・分量	それぞれの技能に応じる。			
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価			
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1			○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明)
	4		○新体力テスト 【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	5		【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	6		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。
2	7		
	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。
	11		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
3	12		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	ケーション英語III	選抜進学	4	石井
教科書	FLEXIII(増進堂)				
副教材	英語長文読解 Praxis Level3(Z会) ターゲット1900(DFTと連動し、考査範囲に含める)				
評価基準	観点① 知識・技能 テキストの英文・設問に対応できるだけの語彙力、英文解釈力が身についている 設問の解法を、本文設問を通じてマスターしている				
	観点② 思考力・判断力・表現力 テキストに基づく別形式出題にも対応できる 初見英文でも、同じ読み方、解き方で対応できる				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 課題・小テストなどに手を抜くことなく取り組んでいる				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業内で扱ったテキストをベースとした問題				
	観点② 授業内で扱った事項の応用。所見問題中心				
	観点③ 課題、小テスト、音読テスト				
授業のねらい・進め方・注意点	テキストの精読及び問題に対する対応を中心に進める。音読・ペアワークも行う。 サポートノートの提出を課す(解答は配布するため、予習として用いてもよい) 適宜小テスト・課題を課す 基本は予習を前提とした授業を行う。音読を含めた復習を欠かさないこと				
家庭学習	学習内容と進め方	【内容】重要表現の復習、精読、音読、サポートノート他 【進め方】授業で出てきた表現を覚えた上で、文構造を意識しながら改めて訳す。繰り返し音読し定着を図る			
	学習の目安時間・分量	【目安時間】30分 【目安分量】その日に習った範囲。少なくとも段落単位で行う			
	学習状況の確認方法	学習した文章の意味(内容の展開)がわかるか、各文の構造や重要構文が理解できているか。音読しながら構造を理解し、意味が分かるという状態			
	成績評価との関係	課題や小テストは観点③に加味する			
図書資料の活用等・探究へのつながり					

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	プラクシス Level3	Stage1-1～Stage1-3
	5		Stage1-4～Stage1-6
	6	中間考査	Stage1-7～Stage2-2
	7	期末考査	Stage2-3～Stage2-5
2	9	プラクシス Level3	Stage2-6～Stage3-2
	10		Stage3-3～Stage4-5
		中間考査	Stage4-6～Stage4-7
		大学入試問題の過去問演習 期末考査	
3			

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理・表現III	選抜	4	太田
教科書	FACT BOOK English Logic and Expression III				
副教材	PLUS 英語頻出問題 共通テスト10分リスニングプレノート				
評価基準	観点① 知識・技能 文法知識を習得し、授業や課題で取り扱った問題を解くことができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 授業で取り扱った問題に関する知識を用いて類題を解くことができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業時のペアワークや小テスの取り組みで評価する。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 授業、課題で取り扱った問題				
	観点② 授業で取り扱った問題の類題、授業で扱った知識を用いて解く初見の問題				
	観点③ 授業内で行う小テストの成績				
授業のねらい・進め方・注意点	+PLUS英語頻出問題を用いてランダムに問われる問題で英文法を復習する 共通テスト10分リスニングプレノートを用いて、リスニング能力を向上させる。				
家庭学習	学習内容と進め方	予習は不要。復習を重視すること。授業で文法問題を解き、解説を行う。 復習では音読を行いながら、問題を解き、解説を確認することを勧める。			
	学習の目安時間・分量	1回の授業につき、15～30分程度の復習は取りたい。授業の中で、理解・定着が足りない分野があれば、自分で再度その分野を復習する。			
	学習状況の確認方法	音読をしながら、既習の問題が解ける。 自分でその問題の解説ができる。			
	成績評価との関係	授業で扱った問題が観点①に出るので、観点①には直結する。 観点②観点③は授業で扱った類題が出るので、自分で解説ができるなら解ける。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	辞書の活用が可能。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	PLUS リスニングプレノート	Sect.1、Sect.2、Sect.3、Sect.4 6回分
	5	中間考査	
	6	PLUS リスニングプレノート	Sect.5、Sect.6、Sect.7、Sect.8 6回分
2	7	期末考査	
	9	PLUS リスニングプレノート	Sect.9、Sect.10、Sect.11、Sect.12 6回分
	10	中間考査	
3	11	PLUS リスニングプレノート	Sect.13、Sect.14、Sect.15、 Sect.16 6回分
	12	期末考査	
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
	外国語	英語演習I	選抜文系	2	山浦
教科書	Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版)				
副教材	ターゲット単語帳				
評価基準	観点① 知識・技能 *テキストの英文で、構文解釈、和訳ができる。 *英単語の意味を日本語でかける。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 *初見の英文で、構文解釈、和訳ができる。 *英単語を埋める4択問題をとく。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 *授業内外で課す課題に取り組んでいる。(この項目は出来不出来ではなく、取り組みを評価する)				
考査	定期考査はなし。				
評価	授業内の取り組みで評価。				
テスト・評価の内訳	観点① テキストの英文・構文解釈・和訳・単語テスト				
	観点② 所見の英文で構文解釈・和訳				
	観点③ 授業内での取り組み姿勢や単語テスト				
授業のねらい・進め方・注意点	演習を通しより多くのアウトプットを生み出すことで、読解方法、英文知識、語彙を習得する。				
家庭学習	学習内容と進め方	単語帳を活用し、毎日単語を取り組む習慣をつける。			
	学習の目安時間・分量	15分程度			
	学習状況の確認方法	わからない単語に付箋を貼り、わかる単語の付箋をはがしていく。			
	成績評価との関係	単語テストを通し、取り組みを判断する。			
図書資料の活用等・探究へのつながり	特になし				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1		Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版) ①～⑦ ターゲット単語帳	
2		Clues to Reading 英文解釈の徹底演習 Standard (数研出版) ⑧～⑮ ターゲット単語帳	
3			

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。</p> <p>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する</p>
教材 教具	<p>□ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。</p>
一学期	<p>志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	<p>前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ② 協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③ 話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④ グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤ 会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥ 予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦ 予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。</p>